

優秀賞

優しき心

岩手県 盛岡市立桜城小学校四年 山田 結心

あの時、私を助けてくれたたくさんの人達を探す
すべはもうない…。

私の住む地いきの交通手だんは車、自転車、バス
で、電車に乗る事は都会の様にはない。私は年に何
度か関東の方に旅行に行く。特に私は横浜が好きで、
そ母にたのんで横浜も必ず行き先に入れてもらって
いる。

去年も横浜に旅行に行った。その時の事だ。

横浜に向かう、地下鉄みなどみらい線に乗った時
の事。その日は金曜日で、帰宅ラッシュの時間もす
ぎていたので、そ母も私も姉弟も母もすわる事が出
来た。

関東の電車のラッシュはよくテレビでみていた。
とてもすわるよゆうもないし、席をゆずってもらえ
そうにもない光景をテレビでみていたので、ラッシ
ュの時間をずらした。

うとした時、ずっとついていたお姉さんが、

「私もさっきの駅に用事があるから一しよに行こ
う。」

と言ってくれた。私はすぐに、それはお姉さんの優
しいうそで、前の駅に用事なんてないと分かったけ
れどお姉さんともどる事にした。母に電話をしてお
姉さんにかわると、

「そっちに用事があるので一しよに行きますね。」

と母に言うてくれて、前の駅に無事に着いた。

母にお姉さんを会わせようと思ったけれど

「こっちに用事があるから。ここの階だんをのぼる
ともどれるからね。」

お姉さんはそう言うていなくなってしまった。

あの時、私を助けてくれたお兄さんも、外国人の
おじいさんも、そして私にうそをついて一しよにも
どってくれたお姉さんにも、もう探してあげがどう
を言う事は出来ない。でも、みんなが私を助けるた
めにひっしになってくれた。そしてお姉さんは優し
いうそをつき、私が安心するようにつきそってく
れた。

いつかまた横浜で、あのお姉さんに会いたい。私
はずっと思っている。

目的地の駅についた時、そ母が一番大きいスーツ
ケースを持って、母は三才と五才の弟と妹の手をつ
ないで、姉も荷物を持っていたので、私は小さいス
ーツケースを持つと言った。ところが、スーツケー
スがバランスをくずしてたおれた。私の住む地いき
の電車はエレベーターのように何かがはさまるとド
アが開くので、私はとっさに手をのばしてしまった。
私の手は地下鉄のドアにはさまったまま、私だけを
車両に残して発車してしまった。私は、次の駅で降
りれば大丈夫、と自分を落ち着かせた。すると同じ
車両に乗っていたお姉さんや、外国人のおじいさん、
会社帰りのお兄さんが私の手を何とかドアからぬこ
うとしてくれたり、駅員さんを探してくれたり、き
ん急ボタンを探してくれたりした。そして私に痛く
ないか、次の駅まで三分、とみんなが声をかけてく
れた。ようやく次の駅に着き、一つ前の駅にもどろ

